

千葉県銚子市沖における協議会（第6回）

日時 令和7年9月8日（月）14：00～15：36

場所 ホテルポートプラザちば 2階 ロイヤル

○経済産業省（事務局）

それでは、定刻になりましたので、ただいまより再エネ海域利用法に基づく第6回千葉県銚子市沖における協議会を開催いたします。

本日は、御多忙のところ、また突然のお声がけにもかかわらず、皆様の御出席を賜り感謝申し上げます。

本日の会議は、一部出席者はオンライン会議アプリを使って各自の職場や自宅等から参加いただいております、リアルタイムで音声のやり取りができるようになっております。

オンライン会議の開催に当たりまして、主にオンラインで出席される構成員に向けてでございますが、事務的に留意点を3点申し上げます。

1点目です。音声がかぶるなどの問題が発生しますので、発言いただく方のカメラとマイクをオンにいただき、御発言時以外はカメラを停止状態に、音声をミュートの状態にさせていただきますようお願いいたします。

2点目です。発言を御希望の際は、チャット機能などを活用して、発言を御希望の旨御入力いただくようお願いします。順次、座長のほうから「〇〇委員、御発言をお願いします」と指名を申し上げますので、カメラとマイクをオンにいただき御発言いただけると幸いです。

3点目です。通信のトラブルが生じた際には、あらかじめお伝えしております事務局の電話番号に御連絡いただければと思います。改善が見られない場合には、電話にて音声をつなぐ形で進めさせていただきます。その他、もし御不明点等ございましたら何なりとおっしゃっていただければと思います。

それでは、皆様、御承知のことと思っておりますけれども、先月の27日に、本会議の選定事業者である千葉県銚子オフショアウィンド合同会社の構成員である三菱商事などが、公募当初の想定を上回る事業環境の変化を理由に本海域での事業開発を中止した旨のリリースが行われたところでございます。政府としては、同社に対し、これまで多大な御協力をいただいていた地元の皆様や関係者に対する最大限の真摯な対応を求めたところでございます。

本日、まずは事業者のほうから、撤退に至った経緯や理由等について説明をいただくとともに、今後の協議会の進め方について皆様に御議論いただくことを目的として本協議会を開催いたしました。

それでは、議事に先立ちまして、本協議会の出席者を御紹介させていただきます。

まずは、申し遅れましたが、私は経済産業省資源エネルギー庁新エネルギー課風力政策室長の古川でございます。よろしくお願いいたします。

続きまして、経済産業省資源エネルギー庁から、省エネルギー・新エネルギー部長の小林も出席をしております。

次に、国土交通省港湾局海洋・環境課課長、馬場様でございます。

続きまして、農林水産省水産庁資源管理部管理調整課計画官、馬場様でございます。

続きまして、千葉県副知事、高梨様でございます。

○千葉県（事務局）

よろしくお願いいたします。

○経済産業省（事務局）

続きまして、千葉県商工労働部部長、関様でございます。

○千葉県（事務局）

よろしくお願いいたします。

○経済産業省（事務局）

続きまして、銚子市市長、越川様でございます。

○銚子市

よろしくお願いいたします。

○経済産業省（事務局）

続きまして、旭市市長、米本様でございますけれども、本日は所用により御欠席と伺っております。

続きまして、千葉県漁業協同組合連合会代表理事会長、坂本様でございます。

○千葉県漁業協同組合連合会

よろしく申し上げます。

○経済産業省（事務局）

続きまして、銚子市漁業協同組合副組合長理事、和田様でございます。

○銚子市漁業協同組合

よろしくお願いいいたします。

○経済産業省（事務局）

続きまして、海匠漁業協同組合代表理事組合長、伊藤様でございます。

○海匠漁業協同組合

よろしく申し上げます。

○経済産業省（事務局）

続きまして、関東旅客船協会所長、宮内様でございます。

○関東旅客船協会

よろしくお願いいいたします。

○経済産業省（事務局）

続きまして、東京理科大学嘱託教授、菊池様でございますけれども、本日は御欠席と伺っております。

続きまして、一般財団法人日本エネルギー経済研究所理事、工藤様でございます。

続きまして、一般社団法人海洋産業研究・振興協会事務局長兼研究部長、塩原様でございます。

続きまして、一般社団法人海洋エネルギー漁業共生センター理事、渋谷様でございます。

○海洋エネルギー漁業共生センター

よろしく申し上げます。

○経済産業省（事務局）

続きまして、足利大学総合研究センター特任教授、永尾様でございます。

○足利大学（座長）

よろしく申し上げます。

○経済産業省（事務局）

続きまして、三菱商事株式会社常務執行役員、電力ソリューショングループCEO、岡藤様でございます。

続きまして、三菱商事洋上風力株式会社代表取締役社長、田中様でございます。

続きまして、千葉銚子オフショアウインド合同会社、三菱商事洋上風力株式会社プロジェクトディレクター、伊原様でございます。

○千葉銚子オフショアウインド合同会社 三菱商事洋上風力株式会社

よろしくお願いたします。

○経済産業省（事務局）

最後に、オブザーバーの方を御紹介いたします。

環境省大臣官房地域政策課洋上風力環境調査室、野玉室長補佐でございます。

○環境省

野玉です。よろしく申し上げます。

○経済産業省（事務局）

以上でございます。

それでは、開会に当たりまして、資源エネルギー庁の小林のほうから一言挨拶をさせて

いただければと思います。

小林部長、よろしく申し上げます。

○経済産業省（事務局）

改めまして、資源エネルギー庁の小林でございます。

本日は、皆様、お忙しい中御参集いただきまして、誠にありがとうございます。

御承知のとおりでございますけれども、先月、8月27日に、三菱商事をはじめとする企業群から、洋上風力発電の千葉の海域を含む3つの海域から全て撤退するという判断の発表がございました。地元の皆様にとっては、大変な驚きであることと承知をしております。国にとっても、そのことにつきましては大変な驚きでございましたし、大変遺憾なことでもございました。

同日、三菱商事の中西社長から、我々の経済産業大臣、武藤大臣のところに報告がございまして、その場で武藤大臣から以下のようなことをお伝えしてございます。

1つには、今回の撤退というものが、日本のエネルギー政策、その中で重要な位置を占めます洋上風力発電事業に大きな遅れをもたらすものであり、大変遺憾であるということ。併せまして、本件については、特に地域、御地元の御理解と御協力を大変受けてきたものでございますので、そうした皆様の期待を大きく裏切るものであると。したがって、地元、地域に対しては真摯に向き合って、丁寧に対応するようにお願いするというところをお伝えしたところでございます。

武藤大臣のほうからは、本件は撤退ということを受けましたけれども、国のエネルギー政策上の重要性に鑑み、地域の御理解、御意向を踏まえてということになりますが、再公募に向かって進んでいきたいという考えも示しているところではございます。しかし、洋上風力は、地域の御理解、御協力なくして進められるものではございませんので、こちらの一存で一足飛びにそうした結論に行くものでもございません。

まず、皆様の御理解を改めて得るためにも、今日、この機会、事業者としての撤退に至った判断及び、今後地域にどのように向き合っていくのかということをしかりとお聞きして、皆様に認めていただく。それから、後ほどもう一度国のほうからも御説明をさせていただきたいと思っておりますけれども、国としてはどういうふうを考えているのかということもぜひお伝えさせていただきたいと思ひまして、この場を設けさせていただいた次第でございます。

そうした再出発の場にできればと思っておりますけれども、まずは皆様の声をお聞きするというのが本日の趣旨でございますので、ぜひ忌憚のない御意見をお聞かせいただければと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○経済産業省（事務局）

それでは、ここで報道関係者の皆様には、協議会の運営に支障を来さぬよう、これ以降の撮影を御遠慮いただきたいと思っております。よろしくお願い申し上げます。

それでは、続きまして、本日の配付資料について確認をさせていただきます。議事次第のほかに、資料1として出席者名簿、資料2として配席図、資料3として千葉県銚子市沖における協議会運営規程の改正案、資料4として千葉県銚子市沖洋上風力発電事業に係る事業性再評価概要、及び今後の地域での取組説明、資料5として今後の取組等について、資料6として今後の取組について、以上になります。お手元の資料で不足等があれば、事務局までお申しつけいただければと思います。よろしいでしょうか。

それでは、まず、議題の1、本協議会の運営についてでございますけれども、事務局である経済産業省、国土交通省及び千葉県で協議会運営規程の改正案を作成しておりますので、その主な内容を御説明いたします。

資料3を御覧ください。新旧で示させていただいておりますけれども、まず第14条でございますが、事務局のうち、千葉県について、組織改編による名称の変更を行っております。

続きまして、第15条ですけれども、書類の備付けについて、実態に即するとともに、他地域との平仄を合わせるための基本的な変更を行っております。

次に、16条ですけれども、引用元である一般海域における占用公募制度の運用指針、こちらの文章に合わせた変更を行っております。

今回は、いずれも形式的な修正となっておりますことから、資料の配付をもちまして御了解をいただければと思っております。

それでは、議事に入りたいと思っておりますので、ここからの進行は永尾座長にお願いしたいと思っております。

永尾座長、よろしくお願い申し上げます。

○足利大学（座長）

永尾でございます。よろしくお願いいたします。

今回の第6回協議会の公開の方法についてですが、運営規程第11条第6項に、「座長が協議会に諮って定める」となっております。これについて、第4回協議会で、引き続き議事録、議事要旨の公開を行う、それから一般の方や報道関係者による傍聴を認めるということで、ユーチューブを使いましてリアルタイムの配信を行わないとしてきました。

ところが、今回は広く透明性を担保するというので、本協議会を機に今後の協議会について録画の配信を行う、ユーチューブに代わって録画の配信を行うということとしたいと思いますが、これに関しましてお諮りしたいと思います。

(「異議なし」の声あり)

○足利大学（座長）

ありがとうございました。では、異議なしということで採択させていただきます。

今回の協議会に関しましては、録画をしておりまして、それは追って公表されるということでございます。よって、本日の協議会開会からただいまの時間までについても撮影しております。録画配信の際は本件についても公開させていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

それでは、議題2の事業性再評価の結果と今後の地域での取組について、に入りたいと思います。誠に残念ではありますが、今回の開発事業中止の判断に至った経緯や影響について、千葉銚子オフショアウインド合同会社を代表しまして三菱商事株式会社より報告をお願いいたします。

○三菱商事株式会社

本日は、お忙しい中急遽お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

8月27日に公表させていただきましたが、事業性の再評価を進めておりました千葉県銚子市沖での洋上風力事業につきまして、誠に遺憾ながら開発を取りやめざるを得ないとの結論に至り、撤退の旨を経済産業省、国土交通省に御報告させていただきました。地域、地元の皆様、そして関係者の皆様には、多大なる御理解と御支援を賜ったにもかかわらず、御期待に応えられなかったことにつきまして深くおわび申し上げます。

事業性の再評価に当たっては、事業会社を構成する各社とともに取り得る様々な手を尽

くして検討してまいりましたが、足元の事業環境においては撤退せざるを得ないとの判断になり、今回苦渋の決断に至ったものです。

洋上風力事業からは撤退となりますが、私どもが目標に掲げ、地域の皆様と御相談しながら進めてきた様々な地域共生策につきましては、引き続き責任を持って継続していく所存です。

それでは、再評価の内容、また今後の地域の取組について、お手元の資料4に沿って御説明をさせていただきます。失礼ながら、着席させていただきます。

8月27日に公表した撤退の理由でございますが、まずコスト面につきましては、新型コロナウイルスの蔓延やウクライナ危機に端を発し、その中でもとりわけサプライチェーンの逼迫、インフレ、為替、金利上昇など、洋上風力業界を取り巻く事業環境が世界的に劇的に変化した結果、想定をはるかに超えてコストが膨らみました。

再評価の過程では、コントラクター、サプライヤーの皆様から様々新しい御提案などもいただきながら最適化の検討を進めました。それでも、なお、入札当時見込んでおりましたコスト、金額と比較をして建設費用が2倍以上に膨らむという結果となっております。また、これに加え、長い事業期間を通じて将来コストがさらに変動するリスク、こういったものも存在すると考えております。

一方、収入面につきましては、事業期間の延長、あるいはF I Pへの移行などを審議会にて御議論いただいていることから、こういった施策も含めてコスト増に対応する収入面の改善案、こういった方策も検討いたしました。これらの施策が実現した場合においても、総支出が総収入を上回るという試算結果となっており、事業継続は困難との結論に至ったものです。

その他、工程や工法の見直し、あるいは風車の変更といった可能性も含め、取り得るあらゆる手段を精査いたしましたが、足元の事業環境においては事業の継続は難しいと判断をするに至ったものであります。

次のスライドをお願いいたします。

応札時、約4年前になります21年5月からの事業環境の変化であります。

21年5月の応札時でございますが、その時点で見通せる事業環境、様々なコスト、資材価格、あるいはインフレ、金利等を含め、当社としては一定の採算を確保した上で公募に参加いたしました。当社を含む事業者からの提案に対し、政府・第三者委員会からは事業計画の実現性、財務計画の適切性等、総合的な評価をいただき、21年12月に事業

者に選定されたと理解しております。

その後、開発を継続してまいりましたが、大幅な事業環境の変化に直面し、今年の2月に公表させていただきましたが、事業性の再評価を実施したものです。

コスト面におきましては、風車や工事会社の切替えを含め、抜本的な再構築を進めてまいりました。また、収入面におきましては、F I Pへの移行、仮にこれが認められた場合ということではありますが、コーポレートP P A採用による収益性の改善の可能性についても鋭意検討をいたしました。

ただ、残念ながら、運転開始が数年先であるということに加え、私どもの採算を確保するだけの高い価格での電力を引き取るという需要家の方が見つからず、断念をするに至ったということでございます。

こうした様々な精査を進めましたが、最終的には巨額投資の回収ができないという再評価の結果を踏まえて継続が困難という判断に至ったものであります。

スライドの下段には、応札時当時と、現在、足元の経済指標、主なものを御参考として掲げております。

次のスライドをお願いいたします。

コストにつきまして、少し補足をいたします。

コントラクター、サプライヤーの皆様から様々新しい御提案をいただいたことも含め、検討を進めたものであります。

その中でも、私どもの洋上風力事業を行っていく上で最も大きな要素である風車そのものにつきましても、事業者として選んでいただいた当時の事業計画にこだわることなく、風車のサプライヤーそのもの、あるいは風車の機種を変えるという非常に大がかりな抜本的な見直し、それに加えまして洋上工事、陸上工事の工法、あるいは工程の見直し、こういったものを含め様々検討をいたしました。こういった検討の結果を踏まえましても、最終的には当初の事業計画比で建設費用が2倍以上に膨らむという結論になったものであります。

風車、洋上工事、陸上工事の検討の主なものを表にまとめさせていただいております。それから、下段には、イメージ図となりますが、風車を変えること、大型化をすることによって全体の本数を減らす、これによって少しでもコストを低減できないかといった検討を進めてきたものであります。

次のスライドをお願いいたします。

収入面の検討でございます。

私どものラウンド1の洋上風力の案件は、FITと呼ばれる固定価格の買取り制度に基づいて入札が実施されております。

一方、その後、FITからFIPへという政策の流れも踏まえて理解しておりますが、FIPへの移行を政府審議会のほうで御議論いただいているという状況を私どものほうでも認識いたしまして、もちろん仮定の話ではありますが、FIPに移行した場合に私ども自身がコーポレートPPAという形で需要家の方を見つけるという、この可能性を探ってまいりました。ただ、残念ながら、先ほども触れましたが、運転開始がまだ数年先になるという不透明さ、それから高い価格で電力を引き取っていただけるという需要家の方が見つからなかったということでもあります。

FIPへの移行以外にも、政府の審議会では価格調整スキーム、あるいは海域占用期間の延長といった案に関しましても御検討、御議論いただいているということを認識しておりましたが、こういった様々な施策を踏まえてもなお総支出と総収入がバランスできないというのが私どもの試算の結果となりました。

次のスライドをお願いいたします。

以上が、誠に申し訳ないのですが、今回事業継続困難ということに至った背景、理由の御説明であります。

一方で、今後、私どもとして、これまで続けてまいりました地域の皆様、地元の方々と御相談をしながら様々取り組んできた地域共生策について御説明をさせていただきます。

私どもとして今後やれること、やるべきことというのは、大きく言って3点あると考えております。

まず、何よりも、この3年、4年の間、地域の方々、漁業関係者の方々、地元の方々といろいろ御相談をさせていただきながら取り組ませていただいている施策、地域共生策に関しましては、洋上風力の事業からは撤退をいたしますが、責任を持って今後も継続をしていきたいと考えております。

青字のところ、大きく3つあるかと思っております。

1つは、漁業との共生に資する取組。これは、例えば藻場の造成であったり、ブルーカーボンの創出実証であったり、こういったことについても引き続き地元の方と御相談をしながら続けていければと思っております。

また、地域産業・雇用の振興に関する取組。これは、例えば地域製品の販路拡大のお手

伝いであったり、あるいは魚食の普及活動、活用レシピの開発等、こういった取組についても引き続き御相談をしながら進めていければと考えております。

3つ目として、住民生活・教育支援に関する取組。これは、私どものグループの会社でありますローソンを地域の皆様に受け入れていただく形で出店させていただいたり、あるいはSTEAM教育といったものに取り組みさせていただいておりますが、こちらにつきましても継続をしたいと考えております。

さらに、これまで取り組んできた施策以外にも、個別に皆様方と御相談をしながら地域の皆様のニーズに可能な限りお応えをしたいと考えておりますので、今後とも御相談をさせていただければと思っております。

2つ目としまして、洋上風力事業をきっかけといたしまして、当社三菱商事として銚子に支店を開かせていただいておりますが、この銚子支店に関しましては、洋上風力事業は撤退とはなりますが、引き続き支店を通じて地域の皆様、あるいは地域の課題解決という取組に継続して当たりたいと考えております。

そして、3点目といたしましては、可能な限り早期の再公募、次の事業者にはバトンをつなぐということが大事だと考えておりますので、経産省さん、あるいは県の方々と御相談をしながら、私どもがこれまで開発を進めてきてそれなりに蓄積をしたデータ、あるいは知見がございますので、そういったものを次の事業者を選ぶ際、あるいは選ばれた後にスムーズに事業に入っていけるように可能な限りデータ提供等を通じてお手伝いできればと考えております。

私からの説明は以上とさせていただきます。

○足利大学（座長）

ありがとうございました。

それでは、構成員の皆様から御意見、御質問を頂戴したいと思います。

なお、本議題につきましては、構成員の皆さんの御意見に真摯に御回答頂くという観点から、お一人の御意見、御質問が終わるごとに、その都度御回答をお願いしたいと思います。

また、今回につきましては、皆様、御意見があるかと思っておりますので、順次指名させていただきます。よろしく申し上げます。

まず、銚子市漁協、和田様、お願いいたします。

○銚子市漁業協同組合

銚子市漁協の和田でございます。

先ほど三菱商事のほうからお話がありましたように、事業者が決まりましてから足かけ4年、一緒になって漁業共生ということで取り組んでまいりました。また、ブルーカーボンに関しましても、漁業共生とはまた別建てで御協力いただいております。ありがとうございます。

我々は、洋上風力と漁業共生の全国のモデルケースとして漁業共生をやってきておりました。これは、今ストップすることはできません。漁業共生というのは、このまま次の業者が決まるまで、決まってから次に引き継ぐまでずっとこれを継続してやっていきたいと思っておりますので、そこら辺を御協力のほうよろしくお願い申し上げます。

○足利大学（座長）

ありがとうございました。

続きまして、海匠漁協、伊藤様、お願いします。

○海匠漁業協同組合

海匠漁協の伊藤です。

ただいま銚子漁協の副組合長様が述べられましたことと全く同じような意見でございます。どうかよろしく願いいたします。

○足利大学（座長）

今お願いしたばかりで、飛ばしておまして、最初海匠漁協さんに御発言願いましたけど、銚子漁協の和田様のコメントに対する回答からまずお願いいたします。併せて、2つとも一緒をお願いします。

○三菱商事株式会社

ありがとうございます。和田様、伊藤様のお言葉、大変重く受け止めております。

まさに、漁協をはじめとする漁業関係者の方々とは、私どももできる限りのことをしたいという思いで御一緒させていただいてきております。

今後どういったものが求められるのか、どういったことを続けていかなければいけないのか、この辺りはぜひ御相談をさせていただければと思っております。

お言葉にあった次の事業者にバトンをつなぐという点も、非常に重要だという認識を持っておりますので、どういったことをどういう形で進めていくのが皆様のお役に立てるのか、これを御相談できればと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○足利大学（座長）

では、次に行きたいと思えます。

千葉県漁連の坂本様、お願いします。

○千葉県漁業協同組合連合会

千葉県漁連の坂本です。私、千葉県漁連の会長という立場で今日は来ているわけですが、同時に全国漁業協同組合連合会の会長でもありますので、その辺のところも含めて少々お話をさせていただきたいと思っております。

今回の撤退に関しましては、私も常務さんたちとお会いして、そのときにお話を伺ったわけですが、私としては到底現状では理解できないことだというようにお話をさせていただきました。

我々としては、理解できるというような状態になるということは、例えば撤退をするということで、地元に関して、我々漁業者に関してもそうですけど、そこの軋轢であるとか、またそこの問題を残さないような形で撤退をし、次の事業者にしっかりと引き継いでいくという状態まで持っていったときに初めて我々としてはある程度の理解を示せるということであって、現状のままではとても理解できるような状態ではないよということを申し上げました。

同時に、9月1日に経産省に赴きまして、大臣とお会いして、そのときには全漁連としての要望を出させていただいたわけですが、そこの中では、今回のことは千葉県であるとか秋田のことだけではなくて、他の地域で現在進行している洋上風力発電に関する計画であるとか、あるいはこれから計画をしていこうと思っている漁業者、または地域、漁連、そういう団体において、自治体において、非常に影響を及ぼすものであると。

要するに、撤退ということからのこの一連のやり方というのは、もしも何か問題があるようなことがあったら全国の漁業者のほうに不安を抱いてしまう。そうなる、まさ

に国の進めているエネルギー政策というようなものに支障を来してしまう。漁業者のほうとしてはこういう事業には協力できないよというような話になってしまうというようなお話をさせていただいて、これは国に対してということでもありますが、関係地域において混乱が生じないように責任を持って対応をしていってほしいということを強く要望したところでもあります。

この要望書に関しましては、それぞれの漁連に対して全漁連のほうから発出をして、こういうようなことをやっていますよという話をさせていただきました。早速、全国の漁連のほうから、私に対して、また全漁連に対して話がありまして、ここのところはしっかりやってほしいというような応援というか、そういうものをいただいたところでもあります。

県漁連としては、先ほどの銚子の和田副組合長、海匠漁協の組合長が申しあげましたように、漁業共生において漁業者に不利益が生じないように、基金等も含めて、漁業共生ということに関しては切れ目なく行ってほしいと。次の事業者が決まるまでどれぐらいの期間かかるか分かりませんが、その間においてしっかりと切れ目なく今までやってきた支援なり、共生策なり、また基金もありますが、そういうものに関してもしっかりとやってほしいということ。

ここのところでトラブルが生じるようなことというのは、私は考えたくはないわけなんですけれど、三菱さんとの間で何か問題があったときにはしっかり国のほうが間に入ってもらって、国のほうも保証金というものを三菱さんのほうと取り交わしているわけですから、そういうものというのもあるわけなので、しっかりそこは国として責任を持って我々の間にも入ってきてほしいというように申し上げます。

以上です。

○足利大学（座長）

ありがとうございました。三菱商事さんお願いします。

○三菱商事株式会社

坂本会長のお言葉も重く受け止めております。本当に私どもとしても断腸の思いと申しますか、洋上風力事業から撤退ということについては皆様に御迷惑をおかけしたということをお大変申し訳なく思っております。

一方で、地域の皆様への共生策といいますか、地域の皆様に資する取組、これについてはしっかりと御相談をしながら続けていきたい、やっていきたいと思っておりますので、ぜひいろいろと御相談をしながら、どういった形、どういうふうに進めていくのが皆様のお役に立てるのかという辺りで御相談させていただければと思っております。よろしくお願いいたします。

○足利大学（座長）

続きまして、銚子市の越川様、お願いします。

○銚子市

銚子市長の越川信一でございます。漁業共生につきましてはただいま御発言がありましたので、私からは地域振興の取組について要望させていただきます。

今回の撤退の発表については、地元銚子の期待を裏切るものであり、大変遺憾に思っております。大幅な物価上昇や環境の変化があったとはいえ、事業の予見性や入札時の売電価格の設定には疑問を持たざるを得ません。

三菱商事は、地域振興について、2022年の11月に銚子支店を開設し、銚子市との地域創生に関する連携協定を締結いたしました。この協定に基づき、銚子市や産業界と連携をいたしまして地域振興の取組を共同で進めてきたところでございます。

先ほどお話がありましたように、銚子市立病院内にローソンを設置いただき、また観光情報を発信する観光パスポートの事業も既に実施をしております。また、グループ会社の三菱食品、銚子商工会議所、銚子市の3者は食に関する連携協定を結びまして、市内の食品企業の商品開発や販路拡大にも取り組んでおります。ABCクッキングスタジオと連携した魚食レシピの開発、児童・生徒へのSTEAM教育も実施していただいております。

こうした三菱商事やグループ企業、関連企業と連携して進めてまいりました地域振興事業は、洋上風力から撤退するのだから終わりということではなく、今後もしっかりと継続していただくことを強く要望いたします。岡藤常務からも、本日、地域共生策については引き続き責任を持って継続をしていくという発言がありましたので、どうぞよろしくお願いいたします。

2点目は、銚子漁協、銚子商工会議所、銚子市の3者で立ち上げましたメンテナンス会社、C-COWS、あるいは地域企業との協議、影響の把握、補償についてでございます。

発電事業者の決定以降、2028年の発電開始に向けて、地元企業や団体は様々な準備を
してまいりました。先行投資を行ってきたところもございます。

C-COWSにつきましては、2028年頃の発電開始を見込みまして、地元高校生へ
の説明を行い、社員の募集を具体的に行っております。全国から洋上風力視察受入れの事
業も進めてまいりました。

C-COWS以外にも、今年1月に着工予定でありました陸上工事について、工事の発
注内示に基づき準備を進め、既に費用が発生している企業もあると伺っております。今回
の事業撤退は、C-COWSや地元企業にも大きな影響、損害を与えるものであります。

三菱商事の中西社長は、継続的な地域との共生を行う旨の発言をされておりますので、
今回の撤退により発生する様々な影響や損害を調査いただき、その補償についてもきちん
と協議をし、対応していただくことを強く求めます。

また、こちら先ほどお話がありましたけれども、事業開始までの期間短縮を図るため、
これまで三菱商事などが行ってきました海底などの調査によるデータの全面的な提供を銚
子市としてもお願いしたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○足利大学（座長）

ありがとうございました。三菱商事さんお願いします。

○三菱商事株式会社

ありがとうございます。1点目のところ、地域の振興に資する様々な取組に関しまして
は、繰り返しとなりますが、私ども、銚子支店を継続する形で、引き続き皆様のお声を聞
きながら取組を継続してまいりたいと考えておりますので、これからはいろいろ御相談は
させていただくことがあるかと思いますがどうぞよろしくお願いいたします。

それから、地元の企業様への影響というところにつきましては、私どももちろん丁寧
に、これまで様々な工事等々を予定しながら会話、御相談させていただいておりますので、
当然のことではあります。きちっとその点に関しましても責任を持って引き続きお声
を聞きながら対応してまいりたいと考えております。よろしくお願いいたします。

○足利大学（座長）

ありがとうございました。

続きまして、千葉県の高梨様、お願いいたします。

○千葉県（事務局）

県副知事の高梨でございます。

県や地元においては、再生可能エネルギーの確保だけでなく、地域経済の活性化の観点からも洋上風力発電事業に期待を寄せてまいりました。このため、県では、県内企業による参入に向け、陸上工事と風車部材の製造分野で商談会の開催や、風車等のメンテナンス港として活用するための名洗港の整備など、様々な事業に取り組んできたところです。

そうした中、事業性再評価の結果、銚子市沖から撤退するという決断に至ったことは大変遺憾であると申し上げるほかなく、結果として県、地元ともに振り回される形になったと考えております。

これまで、洋上風力発電を契機として、地域において様々な取組が実施されてまいりました。先ほど、これまでの取組を今後も継続し、地域の課題解決に取り組むとのことがありましたけれども、今回お話しいただいた取組で全てということではなく、三菱グループとして地域への貢献をしっかりと考えていただくよう強く要請いたします。

○足利大学（座長）

では、三菱商事さんお願いします。

○三菱商事株式会社

お言葉、重く受け止めたいと思います。三菱商事全体として、洋上風力からは撤退となりますが、引き続き地域の振興、地域の活性化に資するような取組を皆様と御相談をさせていただきながら続けられればと思っておりますので、県の関係者の皆様ともいろいろ御相談させていただければと思います。よろしくお願いいたします。

○足利大学（座長）

続きまして、水産庁の馬場様、お願いいたします。

○農林水産省

水産庁の馬場でございます。漁業との協調・共生策等について、今し方お話しいただき

ましたように、これまで非常に多くの関係者の間で調整、議論、そして既に進んでいる取組というものがございます。今後どのように進めていくかというのはこの後の議題でのお話になるかとは思いますが、水産庁としまして、今後また引き続き十分な議論が行われて、関係業者の皆さんの懸念であったり、不安であったり、そういったことが払拭した形で進めていけるように、省庁、それから千葉県をはじめとする関係機関の皆さんと連携していきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

○足利大学（座長）

ありがとうございました。三菱商事さんお願いします。

○三菱商事株式会社

私どものほうで、3年、4年かけて固めてまいりました海域のデータもそうですし、漁場に関するものも漁業、漁協関係者の方々と共にいろいろ取り組んできておりますので、この辺りのデータにつきましても、もちろん必要であればということになりますが提供させていただきながら、スムーズに次の事業につながるようなお手伝いできればと思っております。よろしくお願いいたします。

○足利大学（座長）

続きまして、関東旅客船協会、宮内様、よろしくお願いいたします。

○関東旅客船協会

宮内です。洋上風力発電に関しては、地域として新たな観光資源として大きな期待をしていたところです。これから再公募で新たな事業者が選ばれたときでも、今おっしゃったように知見、データ等を御提供頂いて、共有しながら、今後とも、スムーズじゃないでしようけれども進めていっていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○足利大学（座長）

三菱商事さんお願いします。

○三菱商事株式会社

ありがとうございます。もちろんその覚悟でございますので、引き続き御相談をさせていただければと思います。よろしく願いいたします。

○足利大学（座長）

続きまして、日本エネルギー経済研究所、工藤様、お願いいたします。

○日本エネルギー経済研究所

ありがとうございます。協議会の構成員の一人として参加した点でコメントをさせていただければと思いつつ、エネルギーの分野で研究所等をやっている、やはり社会的な大きな変化があるということは共通の認識であるなと思います。ですが、そうは言いましても、こういった議論を通じていろいろな期待をされた方々がたくさんいらっしゃるという中では、今回の御判断はちょっと残念に思っている次第です。

ただ、漁業共生、地域共生に引き続きお取組いただけるというお話ですので、その点については関係者とできるだけ御議論をしていただければというふうに感じました。

1点だけ、協議会意見をまとめるに当たって当初議論した際に、地域との共生をどうするかということが中心で議論されてきたわけですが、その中でも、いろいろ御指摘したんですけど、事業の持続性というのを念頭に置きながら共生策というものが存在するというバランスの問題があると思っています。この協議会云々ではなく、全体の洋上風力の開発促進策というものについて、ある意味リスクもあるんだということを再認識したわけで、そういった観点も含めて、様々な関係者の方々が引き続きよりよい枠組み、制度になっていくような議論をしていただくことを期待したいなと思います。

以上です。

○足利大学（座長）

ありがとうございます。三菱商事さんお願いします。

○三菱商事株式会社

次の事業者にいかにかスムーズにつないでいくことができるかということは、私どもがやるべきことのひとつ大きなところであるという認識は持っておりますので、今いただいたお言葉もしっかり肝に銘じてやっていきたいと思っております。

○足利大学（座長）

続きまして、海洋産業研究・振興協会の塩原様、お願いいたします。

○海洋産業研究・振興協会

海洋産業研究・振興協会の塩原です。再エネ海域利用法の促進区域第1ラウンドの三菱商事が撤退ということで、このことは他の促進区域はもとより、今誘致を進めている地域にも大きな影響があると言わざるを得ないかなと思います。せっかくプロジェクトを誘致しても撤退するかもしれないという目でどうしても見られてしまって、合意形成上、悪い材料、前例になってしまったかなというふうに感じております。

しかし、撤退という事実はどうも変えることはできないということで、私はステークホルダーではありませんが、撤退によって地域に悪い影響があったというような悪い評判が立たないように、三菱商事の威信にかけて今説明された地域への取組を進めてもらいたいなと思いました。

以上です。

○足利大学（座長）

ありがとうございました。

岡藤様、よろしくお願いいたします。

○三菱商事株式会社

ありがとうございます。地域共生、地域の皆様のお役に立つというところはしっかりと続けてまいりたいと思っております。この点は、繰り返しとなりますが、しっかりと私どもとしてやらせていただくという覚悟であります。

○足利大学（座長）

ありがとうございました。

ここまではいわゆるステークホルダーの方々に御意見をお伺いしたんですが、海洋の専門家、銚子の海域のことを非常によく御存じの海洋エネルギー漁業共生センターの渋谷様、御意見がありましたらお願いいたします。

○海洋エネルギー漁業共生センター

渋谷です。私からは、五島や日本各地で洋上風力と漁業共生の取組を行ってきています、その観点から銚子市のお話をさせていただきたいなと思います。

銚子における洋上風力と漁業共生の取組は、少なくとも全国の見本となるような、ものすごくポジティブな取組をされて今まで成果を出されていると思っています。

海域の実態調査、具体的に言うとも海域が見える化して、そこから漁業共生策を見つけて、海域の実証を行って成功させていると、非常に具体的な取組を今までやってきているんじゃないかなと思っています。

例えば、イセエビの増殖実証だとか、コンブの育成実証だとか、今はキンメダイ漁場と資源調査まで広がっていきまして、天然アワビの資源管理もしっかりやられている。それから、ブルーカーボンの取組とか、海藻や藻場の資源調査と、そういうことも実際にうまく漁業共生策として取り組んでいらっしゃる。

あとは、人材の育成に取り組んでいたと思います。銚子の漁業組合さんは、ここは全国と少し変わっているかなと思うんですけど、漁協職員が若手の人材育成に積極的に取り組んでいるんですよ。すごく大事です。漁協の職員さんがきちんと人材育成して、漁業共生に取り組んでいこうということもやっています。

こういうような取組ができたのも、銚子漁協さん並びに漁業者の方々、そして基金を立てられた三菱商事さんグループが一体となって取り組まれたからだと思っています。ここまで積み重ねてこられた銚子漁協さんと三菱商事さんグループの漁業共生への前向きな取組を中断させるのは、すごくもったいないなと思っていました。銚子にはまだまだ伸び代がたくさんあると思っています。先ほど、そういう中で、岡藤さんのお話を聞いて、少し安心しているところです。

銚子の漁業共生がよい形でこれからも継続されて、全国の本当によい見本となっていくんじゃないかなと思ってお話を聞いていました。

私からは以上です。

○足利大学（座長）

ありがとうございます。

岡藤様、お願いいたします。

○三菱商事株式会社

ありがとうございます。私ども、もちろん海、漁業の専門家ではないわけですが、そういった中で、最初は手探りのところから銚子漁協の方々、県漁連の方々と御相談をしながら、必要とされる場所でできる限りのお手伝いをするということでやってまいりました。引き続き、洋上が終わったら終わりということではなく、皆様のお役に立てるといふ観点から何をしていくのかという辺りを御相談しながら続けられればと思っておりますので、引き続きよろしく願いいたします。

○足利大学（座長）

ありがとうございました。

時間が少しありますので、先ほどコメントを言い足りなかったとか、御質問に対してご意見がありましたら、少しですがお聞きしたいと思います、何かございますか。挙手をいただければ指名させていただきます。

お願いいたします。

○国土交通省（事務局）

国土交通省港湾局の馬場と申します。様々な御意見をいただきまして、ありがとうございます。

和田様のほうから、漁業共生策として取り組まれておりますブルーカーボンの取組、こちらにつきましても、国土交通省港湾局といたしましても全国的な取組として実施させていただいておりますし、様々なノウハウもございますので、ぜひこの辺りはしっかりとサポートさせていただきたいと思っております。

それから、高梨副知事から、名洗港の整備に関しまして御発言をいただきました。名洗港というのは、洋上風力発電事業において欠かすことのできない重要なインフラ整備になります。今は、千葉県さんにおきまして整備を進めていただいているところでございます。

今般の決断によりまして、少し時間は遅れるかもしれませんが、ぜひとも必要なインフラということで、国交省といたしましても、共に相談させていただきながら、しっかりと進めてまいりたいと思っておりますので、ぜひよろしく願いを申し上げます。

○足利大学（座長）

ありがとうございました。

ほかに何かございますか。

では、このセッションは終わりにさせていただきたいと思いますが、皆様から、非常に貴重な御意見、御質問をありがとうございました。

御意見をお伺いしますと、期待の大きさ、どれほど大きな期待をしていたということで、その反対側としても残念であると。それに関して、うまく受け継ぐようにしていきたいという意見が大多数だったと思います。

本日の御意見、御質問を踏まえて、国においては、支援を含む事業環境整備に向けてしっかりと取組を進めるとともに、事業者におきましては、地域の声として真摯に対応をよろしく願います。

では、続きまして、議題3、県の今後の取組等についてに入りたいと思います。

千葉県様から御説明をお願いいたします。

○千葉県（事務局）

千葉県商工労働部長の関でございます。私から、県の今後の取組等について御説明いたします。着席にて御説明させていただきます。

資料5、今後の取組等についての1ページ目、銚子地域の未来創造会議の設置について（案）を御覧ください。

まず、初めにですが、銚子地域の未来創造会議の設置につきましては、県からの提案でありまして、関係者との調整が残されているため、資料については机上のみの配付とさせていただいております。後日、調整が整い次第ホームページにアップさせていただきますので、御承知おきいただければと思います。

それでは、設置の趣旨について御説明いたします。これまで、銚子市沖洋上風力発電事業においては、再生可能エネルギーの確保と地域経済の活性化を目指し、事業者、行政、関係団体等が連携し事業を推進してきたところでございます。

今回、事業者が撤退を決定しましたが、地元と事業者がこれまで取り組んできた漁業共生や地域振興の取組は、地域経済の活性化の観点からも欠かせないものであり、地域の未来をつくっていくためには今後も継続していくことが必要と考えております。

そこで、三菱商事株式会社を含めた関係者が、今後も一緒に、これまでの取組をベース

として地域の未来づくりをどのように進めていくのかを検討するため、本会議体を設置したいと考えております。

会議の構成員としましては、銚子市、旭市、銚子市漁業協同組合、海匠漁業協同組合、銚子商工会議所、三菱商事株式会社及び県を考えております。また、資源エネルギー庁、国土交通省港湾局さんにおかれましてはオブザーバーとして御参加いただき、共に御検討をお願いしたいと思っております。

なお、協議事項と当面のスケジュール案については御覧のとおりでございます。銚子地域の現状や課題の把握とともに、これまでの漁業共生や地域振興の取組を総括した上で今後の取組について協議し、取組内容や実施計画を取りまとめる予定でございます。年内に3回程度議論の場を設けることを考えているところでございます。

続きまして、2ページ目の相談窓口の設置及び影響調査の実施についてを御覧ください。

県では、今回の撤退に伴い、影響が懸念される県内中小企業者等の相談に応じる窓口を、9月3日に千葉県商工労働部カーボンニュートラル推進課に設置いたしました。

また、9月5日から、撤退による県内中小企業者等への影響を確認するため、影響調査を開始したところでございます。

県からの説明は以上になります。

○足利大学（座長）

ありがとうございました。

では、構成員の皆様から御意見、御質問を頂戴したいと思っております。まずは、地元の構成員の方からお願いします。

銚子市漁協、和田様、お願いいたします。

○銚子市漁業協同組合

ぜひやっていただきたいと思っております。

○足利大学（座長）

ありがとうございました。

続きまして、海匠漁協の伊藤様、お願いします。

○海匝漁業協同組合

銚子地域の未来創造会議の設置という提案は賛同です。地元にとって、三菱商事の撤退というのは非常に暗いニュースになってしまいましたが、県が設置する会議では、銚子地域に明るい未来が続いておりますよう検討を進めていただくことを期待しております。よろしく申し上げます。

○足利大学（座長）

ありがとうございます。

続きまして、千葉県漁連、坂本様、お願いいたします。

○千葉県漁業協同組合連合会

未来創造会議の設置ということで、大変ありがたい話だというように思っております。この後、例えば再公募等の動きがあらうかと、国のほうではそういうような形というのがあるかと思うんですけれど、そのときに創造会議と歩調を合わせるというか、創造会議のほうもできるだけ速やかに回数を重ねていってもらって、そちらのほうの方向性がなかなか示せないというようなことじゃなくて、結論をある程度早い時期に出していただいて、再公募なり何なりの方向ができるだけ早くできるようにサポートをお願いしたいと思っております。

○足利大学（座長）

ありがとうございます。

銚子市の越川様、お願いいたします。

○銚子市

千葉県に対する銚子市としての要望事項を申し上げます。

9月1日、銚子市役所で県の担当者と面談させていただいた際にも、私から、今回のプロジェクトのスケジュールに沿って既に先行投資している地元企業があるので、県としてアンケート調査などを実施していただきまして、地元企業のダメージや損害について調査をしていただきたいという旨を申し上げました。

早速、9月5日から、ウェブ形式で事業者撤退による影響調査を開始していただきまし

て、本当にありがとうございます。まずは、ウェブ形式での簡単な影響の有無、影響の種類、具体的な影響、期待する支援策についての調査をした後に、影響があった事業者についてはさらに踏み込んだヒアリングなどを行っていただくと伺っております。

また、相談窓口についても、9月3日の熊谷知事の記者会見、発表に基づきまして迅速に設置いただきました。ぜひ丁寧に、事業者に寄り添った相談の対応をお願いしたいと思っております。

また、ただいま関部長から説明のありました銚子地域の未来創造会議の設置についても、地元の要望を踏まえて迅速な提案をいただいたことに感謝を申し上げます。銚子市としても、先ほど三菱商事に申しあげました地域振興、地域創生の取組の継続について、再度未来創造会議の場で協議をしていただきたいと思いますと思っております。三菱商事には、ぜひともこの未来創造会議に参加していただくということを地元自治体として強く要望いたします。

また、今回の撤退に伴う内容だけではなく、再公募や今後の地域振興についてもぜひ前向きな議論ができればと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

以上です。

○足利大学（座長）

ありがとうございました。

構成員の方で、その他御意見等ございます方は挙手をお願いいたします。

渋谷様、お願いします。

○海洋エネルギー漁業共生センター

銚子地域の未来創造会議の設置については、すごくよろしいかなと思って聞いていました。ぜひ、できれば会議も、現場に即した具体的な実りあるものにしていただければいいかなと。現場とかけ離れた会議ではもったいないと思うので、こういうようなことが起きているので、今は少しマイナスですけれども、それをポジティブに大きく変えるために大事な会議になるんじゃないかなというふうに思います。よろしく願いいたします。

○足利大学（座長）

ありがとうございました。

工藤様、お願いします。

○日本エネルギー経済研究所

1点だけ、確認的なコメントなんですけれども、この創造会議の創設というのは、引き続き共生策等を考える上で非常に意義のあることだと感じたんですが、もし仮に将来的に再入札云々かんぬんといった場合には、恐らくはまた協議会意見の中にこういったものを追加してやってやるというプロセスになるのか否か、その辺のプロセスについては適宜連続性を持って見ていく必要があるかなと思ったので、コメントだけさせていただきます。

○足利大学（座長）

ありがとうございました。

ほかにございますか。

ほかにありませんでしたら、三菱商事の岡藤様、お願いします。

○三菱商事株式会社

ありがとうございます。銚子地域の未来創造会議、こういった場を通じて御説明申し上げておりますと、地域のお役に立つ取組、それがどんなものなのか、どういう形で進めていけばいいのか、この辺りの御相談をさせていただけるということかと思えます。会議の詳細はこれから決まってくるというふうに理解しておりますので、御相談させていただきながら、ぜひ前向きに検討したいと考えております。よろしくお願いします。

○足利大学（座長）

ありがとうございました。

様々な御意見をいただきましたが、最後に千葉県様、お願いします。

○千葉県（事務局）

ありがとうございます。銚子地域の未来創造会議の設置提案につきまして、地元関係者の皆様から御賛同をいただいたこと、大変ありがとうございます。今いただいた意見を踏まえながら、しっかりと調整させていただきたいと思っております。今後、会議への出席者を含めて、関係者の皆様としっかりと調整させていただきながら早期に開催させていただきたいと思っております。

また、改めてになりますが、三菱商事株式会社におかれては、前向きに検討するという
ことでしたが、会議への出席のほうを強くお願いしたいと思います。

以上でございます。

○足利大学（座長）

今の県の今後の取組等について、銚子地域の未来創造会議に対する期待が非常に大きい
ことが大変よく分かりました。それを、可能な限り迅速に進めていただきたいということ
でありました。

あと1つは、再公募をするべしという御意見をいただきました。これに関しましては、
次のセッションでも話があるかもしれませんが、そういうご意見があると。

最後に、三菱商事様も未来創造会議に関しても参画をお願いしたいという御意見がござ
いました。そういうことを踏まえまして、今後の取組をよろしくお願いします。

続きまして、議題4の国の今後の取組についてに入りたいと思います。

資源エネルギーから説明お願いいたします。

○経済産業省（事務局）

ありがとうございます。

資料6を御覧ください。私からは、資料6に沿って、今後の取組について説明を申し上
げます。

まず、1ページ目でございますけれども、当面の取組を示しております。

まず、三菱商事に求める今後の地域共生策等の方向性のフォローアップや、再公募のコ
ンセンサスの醸成、地元との丁寧なコミュニケーションを、県の皆様や市の皆様とも連携
をして実施してまいりたいと思います。

併せて、国の審議会におきまして、今回の撤退に至った要因の検証を行うとともに、そ
れも踏まえた制度見直しを含めた事業環境整備を行ってまいりたいと思います。

その上で、これらの取組を踏まえて、地元の皆様の御理解をいただき、できるだけ速や
かに再公募を実施することを目指してまいりたいと考えております。

2ページ目でございますけれども、今後の進め方の案をお示ししています。先ほど申し
上げたとおりですけれども、地元の皆様の御理解をいただくことが重要であると考えてお
りますので、国としては地元の皆様の御意向をしっかりと踏まえた上で関係者間で議論を

行い、協議会意見の再とりまとめなど、再公募に向けた対応を進めていきたいと考えておりますので、構成員の皆様の御意見を後ほどお聞かせいただければと思います。

3 ページ目以降につきましては、参考資料として、冒頭お話しさせていただいた経産大臣と中西社長との面談概要ですとか、公募占用指針に定めた関係条文を抜粋したものをおつけしておりますので、後ほど御確認いただければと存じます。

私からは以上です。

○足利大学（座長）

ありがとうございました。

ただいまの国からの説明に関して御意見をお伺いしたいと思いますが、本日旭市さんが欠席でございますので、事務局から代わって説明をお願いいたします。

○千葉県（事務局）

事務局から御説明いたします。

千葉県銚子市沖における協議会への意見についてということで、旭市長様より預かっておりますので、読み上げをさせていただきます。

令和7年9月8日、旭市長、米本弥一郎。

千葉県銚子市沖における協議会に対し、以下のとおり意見を申し上げます。

意見。千葉県銚子市沖洋上風力発電事業から事業者撤退の発表を受け、地元からはこれまで推進してきた漁業、地域振興等への影響を懸念する意見が多く上がっております。旭市としては、国及び事業者には、地元からの声をしっかりと聞いていただき、洋上風力発電事業が地域と共存共栄を果たせるように御配慮いただきますようお願い申し上げます。

また、国における今後の方針は、事業者再公募に向け、地元の意見等をいただきながら進めたいとのことですが、このたびの事例を反省として活かし、原因と改善策を掘り下げ、事業者公募・選定基準の改善に取り組んでいただき、速やかな再公募につなげていただきたいと思います。

現段階においても、漁業者をはじめとする地元の方々には、洋上風力発電事業に対して大変不安を感じており、再び同様の事案が起きた場合は事業そのものに対し理解を得ることが難しくなるのではないかと危惧しております。このことを踏まえ、今後の事業進捗については細心の注意と慎重を期し、外部専門家等の意見をいただくなどして事業者公募制度

の改善を検討していただきたく意見として申し上げます。

以上でございます。

○足利大学（座長）

ありがとうございます。では、これについて皆様からご意見、ご質問を頂戴したいと思います。まず地元の構成員の方からお願いします。

銚子市漁協、和田様、お願いいたします。

○銚子市漁業協同組合

この事業、足踏みすることはできないと思っています。国の審議会のほうで速やかに意見を取りまとめていただきまして、再公募に向けて速やかに議論を進めていってほしいと思いますので、よろしくお願いします。

○足利大学（座長）

ありがとうございました。

続きまして、海匠漁協の伊藤様、お願いいたします。

○海匠漁業協同組合

我々海匠漁協では、銚子市沖でなく旭市沖についても洋上風力発電の導入を検討しており、5月に国への情報提供を行ったところであります。そのような中、銚子市沖の事業者が撤退することで、旭市沖の事業に影響が出てしまうのではないかと心配しております。

国におかれましては、確実に事業の完遂が可能となる事業環境の整備や、銚子市沖の事業者の再公募を速やかに行っていただきたいと思っております。

○足利大学（座長）

ありがとうございました。

続きまして、千葉県漁連、坂本様、お願いいたします。

○千葉県漁業協同組合連合会

最初に、私、申し上げましたけれど、例えば再公募に向けた環境づくりというものにお

いても、まず、現在、撤退する場合に、どんな具合に撤退していくのか、しっかり地元との間で問題がないような撤退の仕方がされなかったら再公募なりはないと思いますので、そういうところはしっかりこのところでこの後協議をしていってもらいたいなと思います。

同時に、再公募というのが、全く新しくやるんだみたいな感じであると、地元との協議とかというのは、例えば三菱さんとの間で今まで合意していたことというのは一体どういう場合に引き継がれていくんだろうかということもあります。そういうものが、我々にとってみて、再公募そのものが全く新しい事象、段階になってしまうということに関しては大変な不安がありますので、できるだけ再公募は早くしてもらおうということも必要だけれども、現在やっていたこと、それからこれからやろうとしていたことというのをしっかり引き継いでいってもらいたいというように思っています。

○足利大学（座長）

ありがとうございました。

銚子市の越川様、お願いします。

○銚子市

それでは、国に対する銚子市としての要望を申し上げます。

繰り返しになりますけれども、今回の三菱商事ほか企業連合の撤退は、漁業共生や地域振興への期待が大変大きかっただけに、地元は大変大きなショックを受けています。

また、国においても、経済環境の変化への対応でありますとか制度設計にも問題があったということは否めないと思っております。

国には持続可能な投資環境の整備と制度設計、また坂本会長からもお話がありましたように、地元との合意形成と迅速・確実な再公募の手続を強く要望させていただきます。

今回の事業者の撤退によって、銚子市沖の促進区域の指定が取り消されるということではございません。銚子市沖は、風や海の条件に恵まれ、第1ラウンドの促進区域に指定された洋上風力発電の適地であります。銚子市としては、この銚子市沖の優位性を活かし、地域と共存共栄する洋上風力発電の実現に全力で取り組んでいくという考えに変わりはありません。

国には、地元との同意形成の上で再公募の手続を迅速・確実に進めていただくというこ

とはもちろんでございますが、同じ轍を踏むことがないようにしっかりとした制度設計を行っていただくよう強く求めます。

また、武藤経産大臣が述べておりますように、撤退要因の分析、検証と改善策の構築、再公募に向けた事業環境の整備、国内におけるサプライチェーンの構築にぜひ取り組んでいただき、国が再生可能エネルギーの切り札と位置づけるこの洋上風力発電事業の採算性がしっかりと確保され、安定した確実な運営ができるような持続可能な制度設計、再公募指針の策定をお願いいたします。

お話にありましたように、洋上風力のメンテナンスのための拠点港湾であります名洗港の整備につきましても、国・県によるしくをお願いいたします。約50億円の整備費用のうち、銚子市は9億円を負担するというスキームで、既に昨年度までに3億円を支出しております。発電開始が遅れば、浚渫費用など、さらに費用がかさむことも考えられますので、港湾整備についても事業撤退による影響を把握していただき、しっかりした対応を求めさせていただきます。

繰り返しになりますけれども、洋上風力発電の投資環境を整備し、運用指針に基づく再公募の手续と新たな事業者の選定が迅速・確実に地元合意の上で進められることを強くお願いいたします。

なお、先ほど三菱商事にもお願いいたしましたけれども、先行投資などによって損害が発生している地元企業や団体への補償につきましても、事業者が確実に履行するように国としてもリーダーシップを発揮していただきたいと考えております。

併せて、冒頭で坂本会長からもお話がありましたように、三菱商事が国に積み立てた保証金200億円の活用についてもぜひ検討していただきたいと考えております。事業者が国に積み立てる保証金は、今回のような事業者撤退の事態に備えるためのものでもあるべきだと私は思っております。

銚子市沖と秋田の2海域を合わせて200億円の保証金が積み立てられておりますけれども、銚子市沖の保証金は約50億円程度と計算上は考えられます。この50億円を、単に国庫に入れてしまうということではなく、今回の撤退で損害を被った地元企業の補償や、再入札がスムーズに進むための経費として有効に活用していただくことをぜひ検討いただきたいと思います。

私からは以上でございます。

○足利大学（座長）

ありがとうございました。

そのほかに、御意見、御質問……。

宮内様、お願いします。

○関東旅客船協会

宮内です。環境アセスの確認の件でよろしいでしょうか。

環境アセスについて、これまで事業者によります環境アセスの評価結果報告書として現在提出されておりますが、そのデータを再公募により今後決定した新しい事業者がそのまま活用することが、これまでの環境アセスメント法に照らし合わせても、国・県として認めることができるのでしょうか。すごく立派な報告書なんですけれども、今後再公募された新しい事業者が、アセスに関して評価結果報告書をそのまま活用することはできるのかということですか。

○足利大学（座長）

先ほどからデータの活用という話が何回か出ておまして、環境アセスも含め、あとは地面、いわゆる地盤調査の請負のデータがあると思います。その中で、今は環境アセスに関して利用できるかという話だと思っておりますが、環境省様から……。

環境省様、聞こえますか。ただいまアセスはそのまま利用できるか、利用するとよろしいのではないかと提案が出ましたけど、お答えいただけますでしょうか。

○環境省

環境省の野玉です。今の御質問は、今まで三菱商事様がやられていたアセス手続を再公募した先の事業者が引き継げるかどうかということかと理解したのですが、それについては、今関係省庁で検討が進められているところだと理解しています。ですので、今のところ明確にはお答えできないところなんですけど、いずれにしても円滑に事業が引き継がれるように検討を進めていきますので、すみません、お答えになっていないかもしれませんが、今のところはそういう状況です。

○関東旅客船協会

ありがとうございます。

○足利大学（座長）

ありがとうございました。一般論でございますけど、新しいサイトをつくる場合は、各種の調査、前の事業者の方がやって、その資料を使って、その事業者がやれる部分に関しては十分だと思うんですけど、事業者が替わった場合に関しては、それがそのまま使えるかどうかというのは、事業者のポリシーもございますし、個別の方法も違いますので、必ずしも100%使えるものではないと。ただ、それに関しては可能な限り活用するような、重複することがないような手だては必要だろうと思います。

ということで、環境アセスもその中の一つだと思いますが、よろしくお願ひしたいと思ひます。

ほかに何かございますか。

お願ひします。

○千葉県（事務局）

皆様からも御意見としてございましたけれども、銚子市沖の洋上風力発電事業につきましては、事業者不在の期間が可能な限り短くなるよう、再公募の早期実施をお願ひいたします。また、再公募に当たっては、今回のような事案が二度と起こらないよう、インフレや為替変動、金利上昇などがあっても確実に事業完遂が可能となるような制度設計をお願ひいたします。

さらに、国としては事業者の地域共生等の取組をフォローしていくとの御説明でしたが、県から提案させていただきました銚子地域の未来創造会議においてもオブザーバーとして共に検討をしていただければと思いますのでよろしくお願ひいたします。

○足利大学（座長）

ありがとうございました。

ほかに何かございますか。

では、政府の御説明に関するセッションはこれで終わりますけど……。

どうぞ。

○経済産業省（事務局）

皆様、コメントありがとうございます。いろいろな方から御意見を頂戴しておりますけれども、総じて速やかに再公募と。ただ、その前に、同じ轍を踏まないようにしっかりと今回の要望について検証し、そしてそれを踏まえた事業環境整備、制度整備を行うべし、そういう御意見だったと思います。しっかり受け止めて対応してまいりたいと思っております。

そうした中で、海匠の伊藤様は、旭市の今情報提供いただいている海域につきまして影響が出るのではないかと心配しているというお話をいただきました。それについて、制度整備をしっかりとしていく中で不安を少しでも払拭できたらと思っております。

あと、坂本会長から、再公募もいいんだけど、撤退の仕方が、しっかり地元と合意することが大事だと。加えて、再公募に際して、これまで三菱商事さんと合意をしていたものがどう引き継がれていくのかと、そういったところに心配があるという御意見だったかと思っております。これまでの経緯をしっかりと踏まえて、ぜひ皆様とも連携して対応してまいりたいと思っております。

あと、越川市長のほうから、保証金に関する言及もございました。第1ラウンドの公募占用指針においては、没収した保証金については国庫に納付と明記されているので大変難しいというのもあるんですけども、今後何ができるかというのはよく考えてまいりたいと思っております。

一旦私からは以上です。

○足利大学（座長）

ありがとうございました。

今までの御意見をお伺いしますと、今室長から回答とともにまとめていただいた格好になりましたけど、再公募を速やかにやるべしという意見が多かったように思います。そのために、次回以降は再公募を行うことを前提として検討を進めると。

具体的には、協議会意見の見直し案を議論していくこととしてはどうかと思いますが、構成員の皆様、いかがでしょうか。

では、そういうことで今後は協議会を進めさせていただきたいと思っております。ありがとうございました。

本日予定しておりました議題は以上となります。

事務局から、何かありましたらお願いします。

○経済産業省（事務局）

皆様、ありがとうございます。それでは、私より今後の協議会の進め方について確認をさせていただければと思います。

先ほど、座長の永尾先生のほうからも御提案がありましたとおり、本協議会としては、本会議で再公募を行う方向で調整することとし、再公募に向けて協議会意見取りまとめの見直し等について次回以降検討させていただければと考えております。

具体的な開催時期や内容については、改めて御相談、調整させていただければと思いますので、引き続きよろしく願いいたします。

それでは、最後に、閉会に当たりまして、部長の小林より一言御発言をさせていただきたく存じます。

小林部長、よろしくお願いします。

○経済産業省（事務局）

本日の協議会においては、参加の皆様から率直な御意見、それから撤退に対する心情を忌憚なくお聞かせいただきましてありがとうございました。

今日は、大きくは2つあったわけでございますけれども、まず1点目としては、三菱商事さんのほうから、今後地域にどういうふうに向き合っていくのかということがございました。しっかりと丁寧かつ真摯に対応していくというお考えはお聞かせいただくことができたかなと考えております。この先、いろいろなお考え、御要望も御相談の中で出てくるということだと思いますが、一義的には事業者、企業の対応を見守りつつ、国としてもしっかり地元との考えのギャップができないようにということで確認をし続けていきたいなと考えております。

それから、今日のお話の中では、今回の撤退が地元の間でどういうふうになっていくのかということは、地域を超えて、全国他の地域にも影響があるというお話もありました。その観点からも、国としては先ほど申し上げたような対応を取っていきたいと思っております。

また、県のほうから、銚子地域の未来創造会議というお話がございました。三菱商事のほうからも前向きに検討という話がありましたので、地元と三菱商事の間でその場が設定

されてということになれば、我々としてもオブザーバーとして参加させていただいて、この会議そのものが建設的な議論になっていくように貢献していきたいと考える次第でございます。

それから、国のほうにおきましては、室長の古川から説明したとおり、これから審議会での検討、それは過去の振り返りということに留まらず、将来に向けた制度整備、事業環境整備というものをしっかり行っていきたいと考えております。

今日、御意見の中で、再公募に向けてということが多く出てきたことは、我々にとっても大変心強いことございました。今後に向けては、改めての取りまとめというものが円滑かつ速やかに進むように、引き続き皆様の声を聞かせていただきながら密な御相談をさせていただければと考える次第でございます。

本日は誠にありがとうございました。今後の御協力を引き続きよろしくお願い申し上げます。

○足利大学（座長）

ありがとうございました。

事務局におかれましては、本日の議論を踏まえて、次回以降に向けて御準備をいただけることと思います。

それでは、以上をもちまして本日の協議会を閉じたいと思います。

本日は、御多忙のところ、かつ大変暑い中お集まりいただき、熱心に御議論いただきましてありがとうございました。

— 了 —